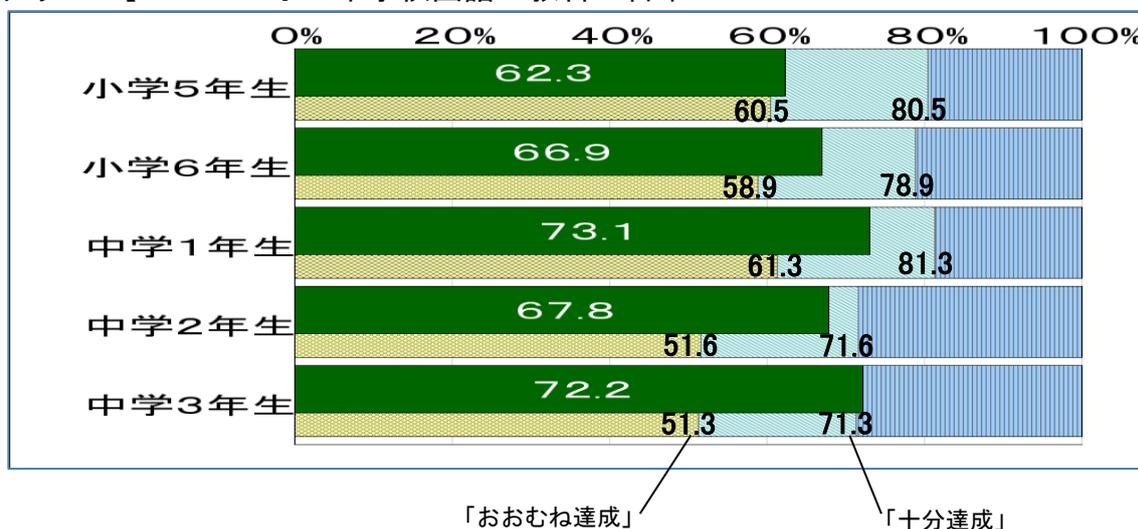


### 3 教科ごとの調査結果 ◎ 国語（小学5年生～中学3年生）

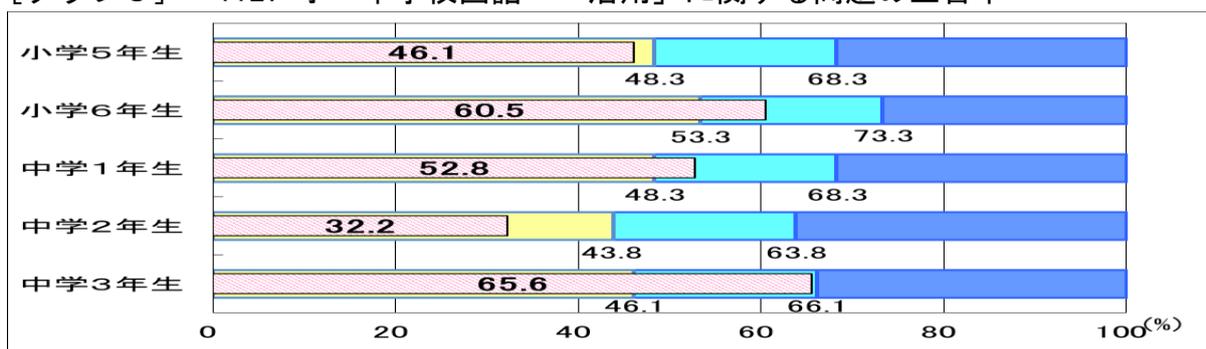
#### (1) 結果の概要

- 教科正答率では、全ての学年において、「おおむね達成」の基準を上回っている。中学3年生においては、「十分達成」の基準を上回っている。【グラフ2】
- 「活用」に関する問題については、小学5年生、中学2年生は「おおむね達成」の基準を下回っている。【グラフ3】
- 「話す・聞く能力」については、小学校6年生を除いて「おおむね達成」の基準を上回っている。小学校では、立場を明確にして、質問や意見を述べたり分からない点や確かめたい点を質問したりすることに課題が見られる。【グラフ4】
- 「書く能力」については、小・中学校共に「おおむね達成」の基準を上回っている。小学校では、文章と図を関係付けて、自分の考えを書く設問、中学校では、平成26年度に引き続き「条件」に合わせて書く設問において課題が見られる。【グラフ5】
- 「読む能力」については、小学校5年生を除いて「おおむね達成」の基準を上回っている。小学校では、文章を読んで「内容を的確に捉える」「表現の工夫を捉える」設問に課題が見られる。【グラフ6】
- 「言語についての知識・理解・技能」については、小・中学校共に「おおむね達成」の基準を上回っている。小学校では、言葉の特徴や決まりに関する事項、中学校では漢字を正しく書く設問において課題が見られる。【グラフ7】
- 昨年度に引き続き、小学校では、「読むこと」と「書くこと」を関連させて考えをまとめて書く設問、中学校では、読み取った内容を基に書いたり複数の「条件」に合わせて書いたりする設問において課題が見られる。

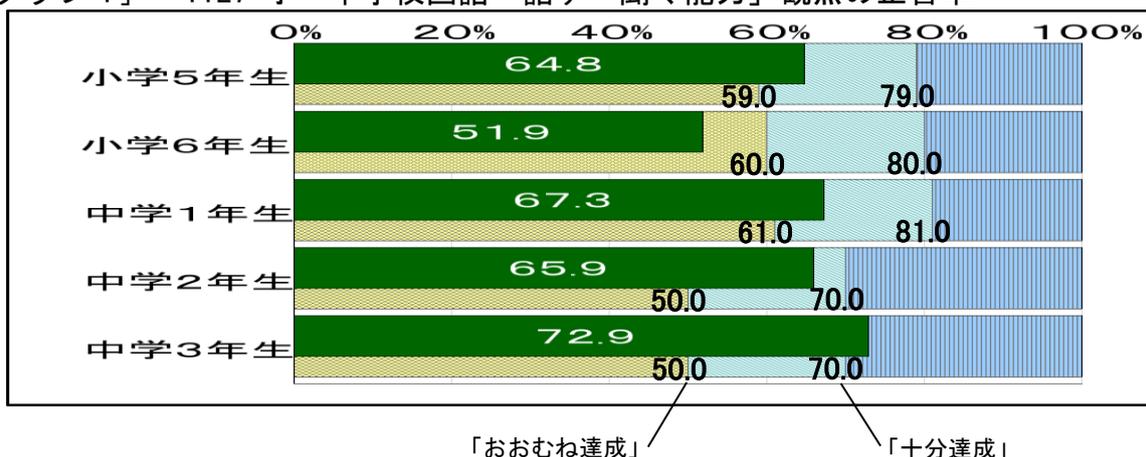
【グラフ2】 H27 小・中学校国語 教科正答率



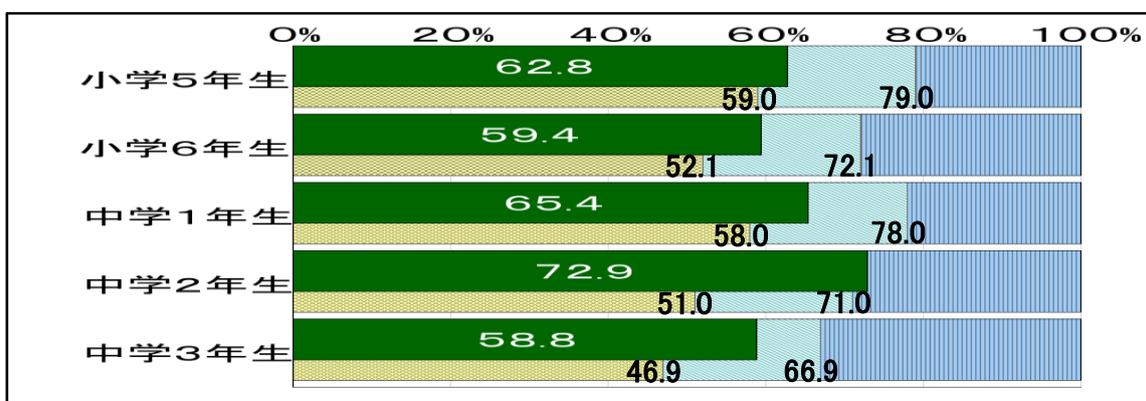
【グラフ3】 H27 小・中学校国語 「活用」に関する問題の正答率



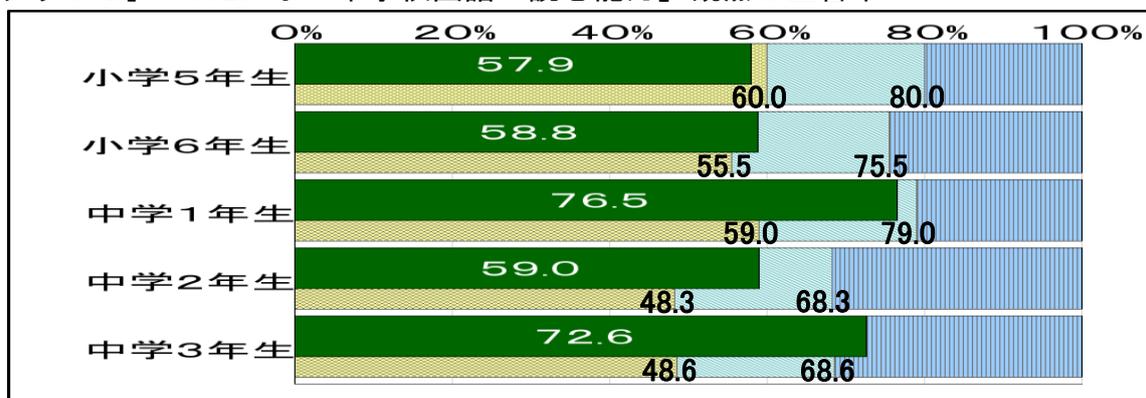
[グラフ4] H27 小・中学校国語「話す・聞く能力」観点の正答率



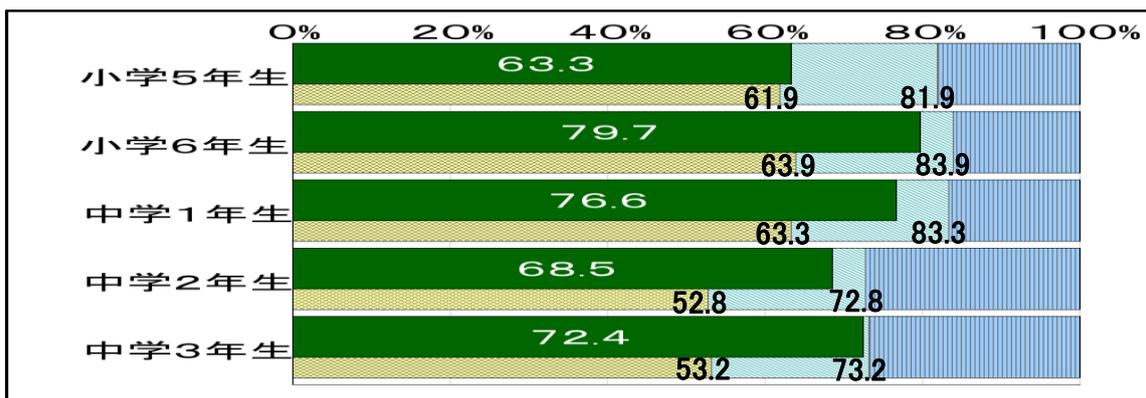
[グラフ5] H27 小・中学校国語「書く能力」観点の正答率



[グラフ6] H27 小・中学校国語「読む能力」観点の正答率



[グラフ7] H27 小・中学校国語「言語についての知識・理解・技能」観点の正答



## (2) 地域別の状況

- 県内5地域の国語の学年別平均正答率の対県比は[表2]のとおりで、依然として地域間の学力差がみられる状況にあり、5学年中2学年で、昨年度と比べて地域差が拡大している。
- 学年別平均正答率の「十分達成」に対する状況は、4学年で5地域とも「おおむね達成」の基準に到達している。[グラフ8]

[表2] 県内5地域における学年別平均正答率の対県比

学年・教科	実施年度	対県比(地域平均正答率/県平均正答率)					地域差	
		佐城	三神	東松浦	杵西	藤津		
小学校5年生	国語	H27	<b>1.02</b>	<b>1.00</b>	<b>0.93</b>	<b>1.00</b>	<b>1.06</b>	<b>▲拡 0.13</b>
		H26	0.99	1.01	0.97	1.03	1.01	0.06
小学校6年生	国語	H27	<b>1.01</b>	<b>1.01</b>	<b>0.96</b>	<b>1.00</b>	<b>1.01</b>	<b>縮 0.05</b>
		H26	1.02	1.00	0.96	0.98	1.03	0.07
中学校1年生	国語	H27	<b>0.99</b>	<b>1.02</b>	<b>0.98</b>	<b>1.02</b>	<b>0.99</b>	<b>縮 0.04</b>
		H26	0.98	1.02	0.98	1.03	0.99	0.05
中学校2年生	国語	H27	<b>0.98</b>	<b>1.03</b>	<b>0.96</b>	<b>1.02</b>	<b>1.02</b>	<b>拡 0.07</b>
		H26	1.00	1.03	0.98	1.00	0.97	0.06
中学校3年生	国語	H27	<b>1.01</b>	<b>1.01</b>	<b>0.98</b>	<b>1.00</b>	<b>0.98</b>	<b>0.03</b>
		H26	1.00	1.01	1.00	1.01	0.98	0.03

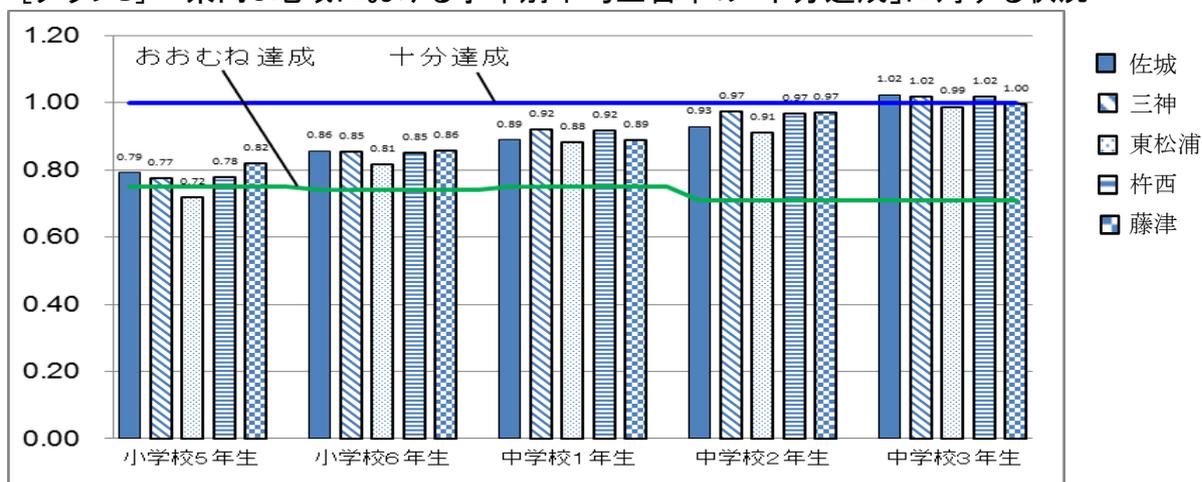
※ 「対県比」は、県平均正答率を1.00として算出

※ 「地域差」は、対県比の最大値と最小値の差を表す

※ 「▲」は、地域差が0.10以上の教科を示す

※ 「拡」は、平成26年度調査より地域差が拡大した教科を、「縮」は縮小した教科を示す

[グラフ8] 県内5地域における学年別平均正答率の「十分達成」に対する状況



※ 地域及び市町名

地域名	市町名
佐城	佐賀市、多久市、小城市
三神	鳥栖市、神埼市、吉野ヶ里町、基山町、みやき町、上峰町
東松浦	唐津市、玄海町
杵西	武雄市、伊万里市、白石町、大町町、江北町、有田町
藤津	鹿島市、嬉野市、太良町

(3) 各学年の設問ごとの正答率及び成果と課題

① 小学5年生 国語

[表3] 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧 ※「○」は「十分達成」、▼は「要努力」を示す

問題番号	出題の趣旨	評価の観点					問題形式	「活用」に関する問題	十分達成	おおむね達成	正答率(%)	無解答率(%)	到達状況
		欲国語への関心・意	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語に関する知識・理解・技能							
1	一	適切な言葉遣いで話す	○				○		85	65	93.2	0.2	◎
1	二	間の取り方に注意して話す	○				○		85	65	49.9	0.2	▼
1	三	相手や目的に応じて、理由や事例などを挙げながら内容を明確にして話す	○				○		80	60	73.1	0.4	
1	四	聞いた事柄を基に分からない点を質問する	○				○		80	60	70.7	0.3	
1	五	聞いた事柄を基に分からない点や確かめたい点を質問する	○				○	○	65	45	37.0	5.5	▼
2	一	相手や目的に応じて、手紙の構成をする		○			○		80	60	72.6	5.2	
2	二	目的に応じて、必要な事柄を明確に書いたり、相手に応じて丁寧な表現を用いて書いたりする		○			○		85	65	79.3	0.7	
2	三	相手や目的に応じた表現に書き直す		○			○		80	60	82.6	4.9	◎
2	四	書こうとすることの中心を明確にし、条件に合わせて書く		○			○	○	70	50	50.5	8.4	
2	五	手紙の構成を理解し、後付けを書く		○			○		80	60	28.9	1.7	▼
3	一	叙述を基に登場人物の気持ちを捉える			○		○		80	60	77.7	1.5	
3	二	各場面の様子に気を付けながら場面と場面とを関係付けて読む			○		○		80	60	63.3	1.9	
3	三	文章の中心に気を付けて読み、理由を挙げて感想を述べる			○		○	○	70	50	50.8	11.0	
4	一	中心となる語を捉える			○		○		85	65	55.2	6.4	▼
4	二	文章に書かれている事実を捉える			○		○		85	65	50.7	3.2	▼
4	三	段落相互の関係を捉える			○		○		80	60	49.9	4.1	▼
5	一1	文脈に即して漢字を正しく読む「試みる」				○	○		80	60	85.2	3.8	◎
5	一2	文脈に即して漢字を正しく読む「貨物」				○	○		85	65	92.5	2.4	◎
5	一3	文脈に即して漢字を正しく読む「印象」				○	○		85	65	89.8	3.2	◎
5	二1	文脈に即して漢字を正しく書く「博物館」				○	○		80	60	65.6	5.6	
5	二2	文脈に即して漢字を正しく書く「季節」				○	○		80	60	69.0	6.1	
5	二3	文脈に即して漢字を正しく書く「覚ます」				○	○		80	60	69.3	8.7	
5	三1	修飾と被修飾の関係について理解する				○	○		85	65	53.9	3.2	▼
5	三2	修飾と被修飾の関係について理解する				○	○		80	60	39.7	3.4	▼
5	四1	慣用句の意味を知る				○	○		85	65	56.3	8.1	▼
5	四2	慣用句の意味を知る				○	○		80	60	52.6	10.6	▼
5	五①	ローマ字で書く「mae」				○	○		80	60	53.7	13.0	▼
5	五②	ローマ字で表記されたものを読む「げき」				○	○		85	65	56.2	15.3	▼
5	五③	ローマ字で表記されたものを読む「はっぴょう」				○	○		80	60	39.1	22.6	▼

○ 成果と課題

話すこと・聞くこと

- 適切な言葉づかいで話す設問では、「十分達成」の基準を上回っている
- 間の取り方に注意して話したり、聞いた事柄を基に分からない点や確かめたい点を質問したりする設問では、「おおむね達成」の基準を下回っている。

書くこと

- 相手や目的に応じた表現に書き直す設問では、「十分達成」の基準を上回っている。
- 書こうとすることの中心を明確にし、「条件」に合わせて書く設問では、正答率50.5で「おおむね達成」の基準50.0を0.5ポイント上回っているが、無解答率が8.4ポイントと課題が見られる。

読むこと

- 文学的な文章では、理由を挙げて感想を述べる設問では正答率50.8で「おおむね達成」の基準50.0を0.8ポイント上回っているが、無解答率が11.0ポイントと課題が見られる。
- 説明的な文章では、中心となる語を捉える、文章に書かれている事実を捉える、段落相互の関係を捉える設問において、全て「おおむね達成」の基準を下回っている。

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

- 文脈に即して漢字を読む設問では、全て「十分達成」の基準を上回っている。
- 修飾と被修飾の関係、慣用句の意味、ローマ字の読み、書きを問う設問において全て「おおむね達成」の基準を下回っている。

② 小学6年生 国語

[表4] 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧 ※「◎」は「十分達成」、▼は「要努力」を示す

問題番号	出題の趣旨	評価の観点					問題形式		十分達成	おおむね達成	正答率(%)	無解答率(%)	到達状況
		国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語理解・技能	選択式	短答式 記述式					
A1	一	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読む				○	○		85	65	98.2	0.3	◎
A1	二	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読む				○	○		85	65	96.4	0.4	◎
A1	三	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読む				○	○		85	65	96.0	0.7	◎
A1	二	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書く				○	○		85	65	65.0	6.5	
A1	二	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書く				○	○		80	60	78.8	2.2	
A1	三	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書く				○	○		85	65	80.1	1.9	
A2	一	文の中における主語を捉える				○	○		85	65	54.3	0.2	▼
A2	二	文を構成する主語と述語との照応関係を捉える				○	○		85	65	74.2	0.3	
A3		話の内容に対する聞き方を工夫する	○				○		80	60	51.9	0.2	▼
A4		具体的な事例を挙げて説明する文章を書く		○			○		80	60	84.9	0.1	◎
A5	一	新聞のコラムを読んで、表現の工夫を捉える			○		○		80	60	57.4	0.6	▼
A5	二	新聞のコラムを読んで、表現の工夫を捉える			○		○		80	60	15.0	3.7	▼
A6		登場人物の相互関係を捉える			○		○		80	60	67.0	1.5	
A7		作品募集の案内の中から、必要な情報を読み取る			○	○	○		80	60	74.5	2.4	
B1	一	目的や意図に応じ、新聞の割り付けをする		○			○	○	75	55	74.8	0.2	
B1	二	目的や意図に応じ、記事に見出しを付ける		○			○	○	80	60	67.8	0.2	
B1	三	目的や意図に応じ、取材した内容を整理しながら記事を書く		○				○	70	50	27.6	2.8	▼
B2	一	目的に応じ、中心となる語や文を捉える			○			○	80	60	68.3	2.2	
B2	一	目的に応じ、中心となる語や文を捉える			○			○	80	60	85.4	3.1	◎
B2	二	目的に応じ、文章の内容を的確に押さえながら要旨を捉える		○	○			○	70	50	65.6	5.1	
B2	三	文章と図とを関係付けて、自分の考えを書く		○	○			○	65	45	43.0	7.0	▼
B3	一	登場人物の行動を基にして、場面の移り変わりを捉える			○		○	○	75	55	59.7	7.1	
B3	二	登場人物の気持ちの変化を想像しながら音読する		○	○			○	65	45	51.9	11.7	

○ 成果と課題

話すこと・聞くこと

- 話の内容に対する聞き方を工夫する設問では、正答率 51.9 で「おおむね達成」の基準 60.0 を 8.1 ポイント下回っており、話の目的や意図を考えながら聞くことに課題が見られる。

書くこと

- 具体的な事例を挙げて説明する設問では、「十分達成」の基準を上回っている。
- 目的や意図に応じ、取材した内容を整理しながら記事を書く設問では、正答率 27.6 で「おおむね達成」の基準 50.0 を 22.4 ポイント下回っており、複数の条件に合わせたり、新聞の様式で書いたりすることに課題が見られる。
- 文章と図とを関係付けて、自分の考えを書く設問では、正答率 43.0 で「おおむね達成」の基準 45.0 を 2.0 ポイント下回っている。無解答率は 7.0 である。複数の条件に合わせて、自分の考えを表現することに課題が見られる。

読むこと

- 目的に応じ、中心となる語や文を捉える 2 つの設問では、アが「おおむね達成」の、イが「十分達成」の基準を上回っている。
- 新聞のコラムを読んで、表現の工夫を捉える設問では、正答率 15.0 で「おおむね達成」の基準 60.0 を 45.0 ポイント下回っており、事実と感想、意見などの関係を押さえながら読むことに課題が見られる。

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

- 学年別配当表に示されている漢字を正しく読む設問では、全て「十分達成」の基準を上回っている。
- 文の中における主語を捉える設問では、正答率 54.3 で「おおむね達成」の基準 65.0 を 10.7 ポイント下回っている。主語の働き(意味や使い方)の理解に課題が見られる。

③ 中学1年生 国語

[表5] 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧 ※「◎」は「十分達成」、▼は「要努力」を示す

問題番号	出題の趣旨	評価の観点				問題形式		十分達成	おおむね達成	正答率(%)	無解答率(%)	到達状況	
		国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語について知識・理解・技能	選択式						記述式
1	一	目的に応じて、話し合いの観点を整理する	○				○	80	60	68.7	3.0		
1	二	立場や意図を明確にしながら計画的に話し合う	○				○	85	65	87.2	0.2	◎	
1	三	質問の意図を捉える	○				○	85	65	66.1	0.4		
1	四	自分の立場を明確にして説明する	○				○	85	65	84.0	1.4		
1	五	立場を明確にして、質問や意見を述べる	○				○	○	70	50	30.2	6.2	▼
2	一	目的や意図に応じて、書く事柄を整理する		○			○	80	60	62.6	0.3		
2	二	目的や意図に応じて、記述の仕方を工夫する		○			○	85	65	75.3	0.6		
2	三	相手が読んで理解しやすいようによりよく書き直す		○			○	75	55	55.2	4.6		
2	四	事実を整理して、適切な見出しを書く		○			○	80	60	69.0	2.4		
2	五	グラフから分かることを、条件に合わせて書く		○			○	○	70	50	64.9	3.7	
3	一	登場人物の相互関係や心情についての描写を捉える			○	○		80	60	89.1	0.6	◎	
3	二	叙述を基に、登場人物の心情を捉える			○	○		85	65	85.1	0.8	◎	
3	三	叙述を基に、登場人物の相互関係や心情を捉える			○	○		80	60	81.0	0.9	◎	
4	一	文章の内容を的確に捉える			○	○		85	65	64.1	1.6	▼	
4	二	文章の内容を的確に捉え、自分の考えを明確にしながら読む			○		○	○	65	45	63.2	5.1	
5	一1	文脈に即して漢字を正しく読む(訓読みの漢字)「困って」				○	○	85	65	97.8	1.1	◎	
5	一2	文脈に即して漢字を正しく読む(訓読みの漢字)「異なる」				○	○	85	65	97.2	1.2	◎	
5	一3	文脈に即して漢字を正しく読む(訓読みの漢字)「訪ねる」				○	○	85	65	97.4	1.3	◎	
5	一4	文脈に即して漢字を正しく読む(音読みの熟語)「内閣」				○	○	85	65	97.8	1.3	◎	
5	一5	文脈に即して漢字を正しく読む(音読みの熟語)「養蚕」				○	○	80	60	71.6	3.8		
5	二1	文脈に即して漢字を正しく書く(訓読みの漢字)「再び」				○	○	85	65	76.3	12.1		
5	二2	文脈に即して漢字を正しく書く(音読みの漢字)「券」				○	○	85	65	52.4	6.5	▼	
5	二3	文脈に即して漢字を正しく書く(訓読みの漢字)「暖かい」				○	○	85	65	74.0	4.3		
5	二4	文脈に即して漢字を正しく書く(音読みの熟語)「方針」				○	○	85	65	63.5	12.7	▼	
5	二5	文脈に即して漢字を正しく書く(音読みの熟語)「成績」				○	○	85	65	48.6	8.0	▼	
5	三1	同音・同訓の漢字を正しく使う「治める」				○	○	80	60	60.0	2.4		
5	三2	同音・同訓の漢字を正しく使う「納める」				○	○	80	60	67.8	2.3		
5	四	熟語の構成について理解する				○	○	85	65	74.7	2.7		
5	五	ことわざの意味と使い方について理解する「宝の持ちぐされ」				○	○	80	60	93.0	2.8	◎	
5	六	相手や場面に応じ、適切に敬語を使う				○	○	80	60	76.4	3.0		

○ 成果と課題

話すこと・聞くこと

- 立場や意図を明確にしながら計画的に話し合う設問では、「十分達成」の基準を上回っている。
- 話し合い活動の中で、立場を明確にして、質問や意見を述べる設問では、「おおむね達成」の基準を下回っている。

書くこと

- 目的や意図に応じて書く事柄を整理したり、記述の仕方を工夫したりする設問では、「おおむね達成」の基準を上回っている。

読むこと

- 文学的な文章では、登場人物の相互関係や心情についての描写を捉える設問、叙述を基に、登場人物の心情を捉える設問、登場人物の相互関係や心情を捉える設問において、全て「十分達成」の基準を上回っている。
- 説明的な文章では、文章に書かれている内容を的確に捉える設問で「おおむね達成」の基準を下回っている。

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

- 漢字の読みについての設問では、5設問中4問が「十分達成」の基準を上回っている。
- 文脈に即して漢字を正しく書く設問では、5設問中3問「おおむね達成」の基準を下回っている。

④ 中学2年生 国語

[表6] 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧 ※「◎」は「十分達成」、▼は「要努力」を示す

問題番号	出題の趣旨	評価の観点				問題形式			十分達成	おおむね達成	正答率(%)	無解答率(%)	到達状況	
		国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	選択式	短答式	記述式						
1	一	主張と根拠の関係に注意して話を構成し、相手に分かりやすく話す	○				○			75	55	73.1	0.3	
1	二	話し合いの方向を捉えて司会の役割を果たす	○					○	○	65	45	23.1	22.3	▼
1	三	相手や場に応じた言葉遣いについての知識を生かして話す	○					○		70	50	92.5	3.2	◎
2	一	相手や場に応じた話し方についての知識を生かして話す	○					○		75	55	93.6	0.6	◎
2	二	相手や場に応じた言葉遣いについての知識を生かして話す	○					○		65	45	47.3	8.7	
3	一	段落の役割を考えて文章を構成する		○				○		75	55	90.8	2.1	◎
3	二	図表などを用いて、伝えたい事実や事柄について根拠を明確にして書く		○				○		70	50	78.8	1.2	◎
3	三	書いた文章を読み返し、語句の用法を確かめて書く		○				○		70	50	59.6	10.6	
4	一	文章の形式を踏まえ、紙面を構成する		○				○		75	55	90.0	0.7	◎
4	二	伝えたい事柄について、表現の技法を効果的に用いて書く		○		○		○	○	65	45	45.2	10.9	
5	一	前後の文脈から、的確な語句を捉え、判断する				○		○		75	55	93.2	0.8	◎
5	二	文章の中心的な部分と付加的な部分を読み分け、目的に応じて要旨を捉える						○	○	65	45	27.7	7.6	▼
5	三	文章の表現の特徴を的確に捉える				○		○		70	50	52.9	1.5	
6	一	文脈の中における語句の意味を的確に捉え、理解する				○		○		70	50	80.8	1.2	◎
6	二	登場人物の描写に注意して読み、内容を理解し、自分の考えをもつ				○			○	60	40	32.8	18.6	▼
6	三	擬人法などの表現技法を理解する				○	○	○		70	50	66.8	3.6	
7	一1	文脈に即して漢字を正しく読む(訓読みの漢字)「険しい」					○	○		75	55	97.7	0.9	◎
7	一2	文脈に即して漢字を正しく読む(訓読みの漢字)「設ける」					○	○		75	55	88.3	4.2	◎
7	一3	文脈に即して漢字を正しく読む(音読みの熟語)「利益」					○	○		75	55	94.9	2.2	◎
7	一4	文脈に即して漢字を正しく読む(音読みの熟語)「厳密」					○	○		75	55	87.9	3.3	◎
7	一5	文脈に即して漢字を正しく読む(熟字訓)					○	○		75	55	98.4	0.8	◎
7	二1	文脈に即して漢字を正しく書く(訓読みの漢字)「祝う」					○	○		75	55	59.4	10.2	
7	二2	文脈に即して漢字を正しく書く(訓読みの漢字)「拜む」					○	○		70	50	27.6	40.1	▼
7	二3	文脈に即して漢字を正しく書く(同訓異字)「温かい」					○	○		70	50	56.5	5.7	
7	二4	文脈に即して漢字を正しく書く(音読みの熟語)「単純」					○	○		70	50	68.6	11.0	
7	二5	文脈に即して漢字を正しく書く(音読みの熟語)「簡潔」					○	○		70	50	30.5	19.8	▼
7	三1	文脈の中で語句や語彙を正しく使う(文節の区切り方)					○	○		70	50	85.3	1.4	◎
7	三2	文脈の中で語句や語彙を正しく使う(文節の働き)					○	○		75	55	41.6	2.9	▼
7	三3	文脈の中で語句や語彙を正しく使う(故事成語)「蛇足」					○	○		75	55	37.9	2.5	▼
7	四	字形を整えて楷書で書く					○	○		75	55	93.1	3.5	◎
7	五1	歴史的仮名遣いについて理解する					○	○		75	55	81.1	4.1	◎
7	五2	日本の文学には様々な種類の作品があることを理解する					○	○		75	55	72.2	1.7	

○ 成果と課題

話すこと・聞くこと

- 相手や場に応じた言葉遣いについての知識を問う設問では、「十分達成」の基準を上回っている。
- 相手や場に応じた話し方についての知識を問う設問では、正答率 93.6 で「十分達成」の基準 75.0 を 18.6 ポイント上回っている。
- 話し合いの方向を捉えた司会の役割について問う設問では、正答率 23.1 で「おおむね達成」の基準 45.0 を 21.9 ポイント下回っている。また、無解答率も 22.3 ポイントで課題が見られる。

書くこと

- 段落の役割を考えて文章の構成を問う設問と、文章の形式を踏まえて紙面を構成する設問では、どちらも「十分達成」の基準 75.0 を上回っている。
- 図表などを用いて、伝えたい事実や事柄について根拠を明確にして書く設問では、正答率 78.8 で「十分達成」の基準 70.0 を 8.8 ポイント上回っている。
- 書いた文章を読み返し、語句の用法を確かめて書く設問では、「おおむね達成」の基準 50.0 を 9.6 ポイント上回っているが、無解答率が 10.6 ポイントであり、課題が見られる。誤答の要因としては、文と文をつなぐ接続詞が適切に使えていなかったことが考えられる。
- 伝えたい事柄について、表現の技法を効果的に用いて書く設問では、「おおむね達成」の基準 45.0 を 0.2 ポイント上回ったが、無解答率が 10.9 ポイントであり、課題が見られる。
- 平成 26 年度に引き続き、「条件」に合わせて書く設問において課題が見られる。

読むこと

- 前後の文脈から、的確な語句を判断する設問では、正答率 93.2 で「十分達成」の基準 75.0 を 18.2 ポイント上回っている。文脈の中における語句の意味を的確に捉える設問では、正答率 80.8 で「十分達成」の基準 70.0 を 10.8 ポイント上回っている。
- 文章の中心的な部分と付加的な部分を読み分け、目的に応じて要旨を捉える設問では、「ね達成」の基準 45.0 を 17.3 ポイント下回っている。

- 登場人物の描写に注意して読み、内容を理解し、自分の考えを書く設問では、正答率 32.8 で「おおむね達成」の基準 40.0 を 7.2 ポイント下回っている。無解答率は 18.6 ポイントであり、課題が見られる。2 問はいずれも「活用」に関する問題で、「条件」に合わせて要旨をまとめたり、自分の考えを書いたりすることに課題が見られる。

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

- 文脈に即して漢字を正しく読む設問では、全て「十分達成」の基準を上回っている。
- 「文節の区切り方」「字形を整えて楷書で書く」「歴史的仮名遣い」等の「知識」を問う設問では、「十分達成」の基準を上回っている。
- 文脈に即して漢字を正しく書く設問では、「訓読みの漢字」「音読みの熟語」の正答率が、それぞれ 2 設問中 1 問で「おおむね達成」の基準を下回っている。無解答率は「拝む」が 40.1 ポイント、「簡潔」が 19.8 ポイントであり、課題が見られる。

⑤ 中学3年生 国語

[表7] 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧 ※「◎」は「十分達成」、▼は「要努力」を示す

問題番号	出題の趣旨	評価の観点					問題形式			十分達成	おおむね達成	正答率(%)	無解答率(%)	到達状況	
		国語への関心・意欲	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	議・理解・技能	選択式	短答式	記述式						
A1	一	相手の反応を踏まえて話す	○				○				75	55	91.4	0.1	◎
A1	二	聞き手を意識し、分かりやすい語句を選択して話す	○					○			70	50	46.2	14.4	▼
A2	一	意見を支える根拠の明確さについて助言する		○				○			75	55	78.1	0.3	◎
A2	二	書いた文章を読み返し、語句の選び方や使い方を工夫して書く			○				○		75	55	81.9	0.2	◎
A3	一	表現の技法について理解する					○		○		75	55	55.4	0.3	
A3	二	登場人物の心情や行動に注意して読み、内容を理解する				○			○		70	50	87.1	0.2	◎
A3	三	登場人物の言動の意味を考え、内容を理解する				○			○		70	50	89.3	0.3	◎
A4	一	伝えたい事実を明確に書く			○				○		70	50	76.9	4.6	◎
A5	一	文章から適切な情報を得て、考えをまとめる				○			○		75	55	93.2	0.3	◎
A6	一	目的に応じて要旨を捉える				○			○		70	50	70.0	0.4	◎
A6	二	表現の特徴を捉える				○			○		75	55	85.6	0.4	◎
A7	一	伝えたい事柄が明確になるように文章の構成を考える			○				○		70	50	65.8	0.7	
A7	二	伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書く			○				○		70	50	45.2	10.5	▼
A8	一	必要に応じて質問しながら聞き取る	○						○		75	55	82.0	0.7	◎
A8	二	必要に応じて質問しながら聞き取る	○						○		70	50	73.3	0.8	◎
A9	一1	文脈に即して漢字を正しく書く					○		○		75	55	94.2	2.2	◎
A9	一2	文脈に即して漢字を正しく書く					○		○		70	50	78.8	8.6	◎
A9	一3	文脈に即して漢字を正しく書く					○		○		75	55	75.5	14.1	◎
A9	二1	文脈に即して漢字を正しく読む					○		○		70	50	69.1	5.9	
A9	二2	文脈に即して漢字を正しく読む					○		○		75	55	94.0	0.9	◎
A9	二3	文脈に即して漢字を正しく読む					○		○		75	55	97.2	1.0	◎
A9	三ア	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う					○	○			75	55	97.7	0.5	◎
A9	三イ	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う					○	○			70	50	55.6	0.8	
A9	三ウ	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う					○	○			75	55	83.9	0.7	◎
A9	三エ	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う					○	○			75	55	70.7	0.8	
A9	三オ	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う					○	○			70	50	47.9	0.7	▼
A9	三カ	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う					○	○			75	55	85.7	0.8	◎
A9	四①	単語の類別について理解する					○	○			75	55	54.7	1.0	▼
A9	四②	単語の類別について理解する					○	○			70	50	27.8	1.2	▼
A9	五	毛筆を用いて、楷書で文字を書く					○	○			75	55	87.0	0.9	◎
A9	六	手紙の書き方を理解して書く					○	○			70	50	58.1	1.2	
A9	七1	漫画の内容を参考にして、登場人物の思いやものの見方を想像する					○	○			70	50	73.0	1.5	◎
A9	七2	代表的な古典の作品に関心をもつ					○	○			75	55	68.9	10.2	
B1	一	状況に応じて、資料を活用して話す	○					○		○	70	50	71.4	0.1	◎
B1	二	効果的な資料を作成し、活用して話す	○					○		○	70	50	85.6	0.2	◎
B1	三	資料の提示の仕方を工夫し、その理由を具体的に書く	○	○					○	○	60	40	60.5	7.2	◎
B2	一	目的に応じて文章を要約する				○			○		70	50	81.3	0.2	◎
B2	二	文章の中心的な部分と付加的な部分などを読み分け、要旨を捉える				○			○		70	50	63.3	0.4	
B2	三	複数の資料から適切な情報を得て、自分の考えを具体的に書く			○				○	○	55	35	16.4	7.9	▼
B3	一	表現の工夫について自分の考えをもつ				○			○		70	50	85.7	0.7	◎
B3	二	表現の工夫について自分の考えをもつ				○			○		70	50	80.6	0.7	◎
B3	三	文章の構成や展開などを踏まえ、根拠を明確にして自分の考えを書く			○	○			○	○	60	40	45.8	12.9	

○ 成果と課題

話すこと・聞くこと

- 7設問中6問で「十分達成」の基準を上回っている。
- 聞き手を意識し、分かりやすい語句を選択して話す設問では、正答率46.2で、「おおむね達成」の基準50.0を3.8ポイント下回っている。

書くこと

- 交流をして互いに助言したり、推敲したりすることを問う設問では、「十分達成」の基準を上回っている。
- 伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書くことを問う設問では、正答率45.2で、「おおむね達成」の基準50.0を4.8ポイント下回っており、文の接続に注意し、伝えたい事柄を明確にして書くことに課題が見られる。
- 複数の資料から適切な情報を得て、自分の考えを具体的に書く設問では、正答率16.4で、「おおむね達成」の基準35.0を18.6ポイント下回っており、複数の資料の内容を関連付け、それらの内容を適切に取り上げて、説明や具体例を加えて書くなど、「読むこと」と関連付けて自分の考えを書くことに課題が見られる。

読むこと

- 主として「知識」に関する問題の設問では、「十分達成」の基準を全て上回っている。
- 複数の資料から適切な情報を得て、自分の考えを具体的に書く設問では、正答率が16.4で「おおむね達成」の基準を下回っており、複数の資料から適切な情報を読み取り、書くことと関連付けて自分の考えをまとめることに課題が見られる。

#### 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

- 文脈に即して漢字を正しく読む、書く、語句の意味を理解し文脈の中で適切に使うことに関しては、12問中8問で「十分達成」の基準を上回っている。
- 「たなびく」という「語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う」設問では、正答率47.9で、「おおむね達成」の基準を下回っている。H24年度調査でも同一の問題が出題されており、同様の結果であった。語感を磨き語彙を豊かにすることに課題が見られる。
- 単語の類別について、単純な理解はできつつあるが、転成名詞などは十分に理解できていない。
- 送り仮名のある訓読みの漢字(余)を書くことを問う設問の無解答率が、他の設問の無解答率に比べて高い。

#### (4) 改善のポイント(校種ごと)

##### 小学校

- ・ 国語科の授業における話し合い活動はもちろん、他教科や特別活動における話し合い活動の場においても、立場を明確にして質問や意見を述べることや、出された質問や意見が適切かどうかを意識して聞くことを指導する。
- ・ 話し合い活動や交流活動において、他者の意見に対して「賛成か反対か」「それはなぜなのか」といったことを書かせることで、自分の考えをまとめたり、考えたことを整理したりする機会を設定する。
- ・ 総合的な学習の時間などに、お礼の手紙を書く取り組みなどがあれば事前に指導する機会を設け、学習した内容を想起しながら書かせる指導法が考えられる。
- ・ 単元の指導事項と照らし合わせながら、適切な条件(字数・キーワード・引用など)を設定し、その「条件」に合わせて書かせる指導を継続して行う。
- ・ 漢字の読み書きは、ドリル的な学習だけではなく、漢字の意味や成り立ちを考える場面や、学習した漢字を積極的に使うことができるような場面を設定するなどして、定着を図るようにする。
- ・ 修飾と被修飾の関係については、児童が書いた文を交流させるような学習を位置付けて、書かれた内容が適切かどうかをお互いに確認し合うなどの活動を通して、理解を深めるようにする。
- ・ 慣用句は、意味を指導するだけでなく、学習した慣用句を用いて作文するなどの活動を、「書くこと」の学習に取り入れるなどして、その定着を図る。

##### 中学校

- ・ 「話すこと・聞くこと」に関する学習では、特に、話し合う場を設定し、日常生活や社会生活の中の話題について、司会や提案者を立てて討論を行う等の学習活動を繰り返して行う。
- ・ 「『条件』に合わせて書く」という学習活動を繰り返し設定し、継続的に指導する。
- ・ 「意見を述べる文章を書く」ために、論点について賛成か反対かなど自分の立場を決めて、自分の考えの中心や主張を明確にして書くような学習活動を設定する。
- ・ 文章に書かれていることを読み取るだけにとどまらず、作品に表れている登場人物の心情、書き手の思いや価値観、表現の仕方などについて、自分自身の感想をもち、他者と交流するような学習活動を設定する。
- ・ 目的に沿って資料の内容を整理する際に、使用した資料の内容を適切に取り上げているかを確認するように指導する。また、その内容を基に自分の考えを適切に表現できているかを確認させるなど、「書くこと」と関連付けて指導する。
- ・ 文法事項については、例文を使って比較したり書き換えたりして、文法事項を取り上げる場面を多く設定し、品詞や文の成分が文の中で果たす役割の違いに着目するように指導する。
- ・ 漢字に関しては、読んだり書いたりするだけではなく、漢字の意味を調べたり、話や文章の中で実際に使われている意味を踏まえながら学習したりするなどして、生徒の語彙力が高まるような学習活動に取り組ませる。